

## 漢方ソムリエの 認定と生薬高騰

クラシエ製薬株式会社 漢方研究所 生薬研究グループ  
グループ長 土田 貴志

### ●はじめに

近年の科学技術の進歩にともない、漢方薬生薬の成分、薬理活性、遺伝子情報などの多くの研究がなされ、生薬の評価法についてはこの数十年で急速に進歩しました。しかし、それでも現代の科学技術で解明されたのはごく一部分で、生薬の鑑別においては味やにおいなど五感に基づく経験的鑑別が現在もなお有用であることに変わりはありません。

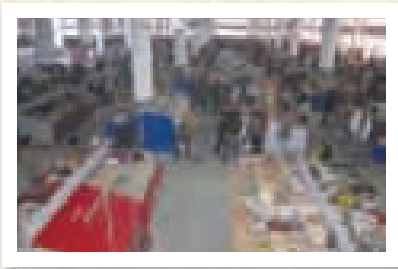
また、科学的評価法の発展とは裏腹に、経験的鑑別に長けた人が減少し、鑑別に関する人材を養成する機関も少なく、大学においても専門的に指導できる先生方が少なくなっています。しかし、漢方は今後も人類にとって大切な医療であることに間違いなく、良質の漢方薬を後世に残していくためには生薬鑑別専門家を育てていかなければなりません。このような意図から御影雅幸先生(金沢大学 医薬保健学域 薬学類・創薬科学類 教授)を理事長に、安井廣迪先生(医療法人清風会 安井医院 院長)を副理事長とする「日本漢方生薬ソムリエ協会」が発足しました。

本協会はソムリエ認定試験を実施し、合格者をソムリエ認定することで、生薬鑑別の専門家の育成をはかっています。先般、第1回の認定試験が実施され、僭越ながら私も認定をいただき、審査いただいた先生方への感謝と、その責務の大きさを実感しております。

### ●漢方生薬を取り巻く中国の現状

この数年来、漢方薬をとりまく環境は大きく変化しており、その中でにわかには頭を悩ませてきたのが中国産生薬の価格高騰です。この問題は単に製薬企業側の原価上昇にとどまらず、漢方薬の根幹に関わる種々の懸念を含んでいます。価格高騰の原因は種々あり、生薬の需要増、世界的な異常気象にともなう生産の不安定化、さらには中国の経済発展にともなう経費高騰や社会変化等が主な原因です。農村部では若年・壮年層の多くが都市部に流出し、農村部に残留していても地方で積極的に進

められている  
高速道路、高  
速鉄道、ダム  
建設等の事業  
への参画により  
離農・過疎  
化が進行し、  
中国の農村の姿が大きく変わりました。



生薬の生産も例外ではなく、栽培者や採薬人が減少する一方で、低コスト、あるいは条件のよい場所を求めて産地が移動するなど全国規模で変化しており、古くからの道地薬材の産地でも生産量が激減している例もあります。また、産地における生産品目の変化や機械化等にともなう生産環境の変化により、中国における生薬生産体制が大きく変化しつつあります。

### ●漢方生薬ソムリエの役割

このような中、中国の伝統的生産技術の変化が生薬の品質に及ぼす影響が懸念されます。しかし、時代や生産環境がいかに変化しようとも、生薬の品質は維持されなければなりません。品質の「検証」と「維持・向上への取り組み」は、漢方生薬ソムリエに課せられた義務であると思います。

中国4000年の漢方の歴史において、近年は史上最大のうねりの中にあり、これからさらに大きな変革期を迎えるでしょう。漢方薬は長い歴史に培われた先人の知恵と経験によって作られてきましたが、いまだ完成形には至らず、生薬個々の成分や作用は未解明の部分も少なくありません。今後、科学の進歩とともに解明が進み、完成形に近づくのにどれほどの歳月を要するか不明ですが、先人の賜物である現代の漢方を少しでも進化させ次世代につなぐことは漢方および生薬と向き合う者の責務であり、私もソムリエとしてその一端を担うべく努力していきたいと思っています。

